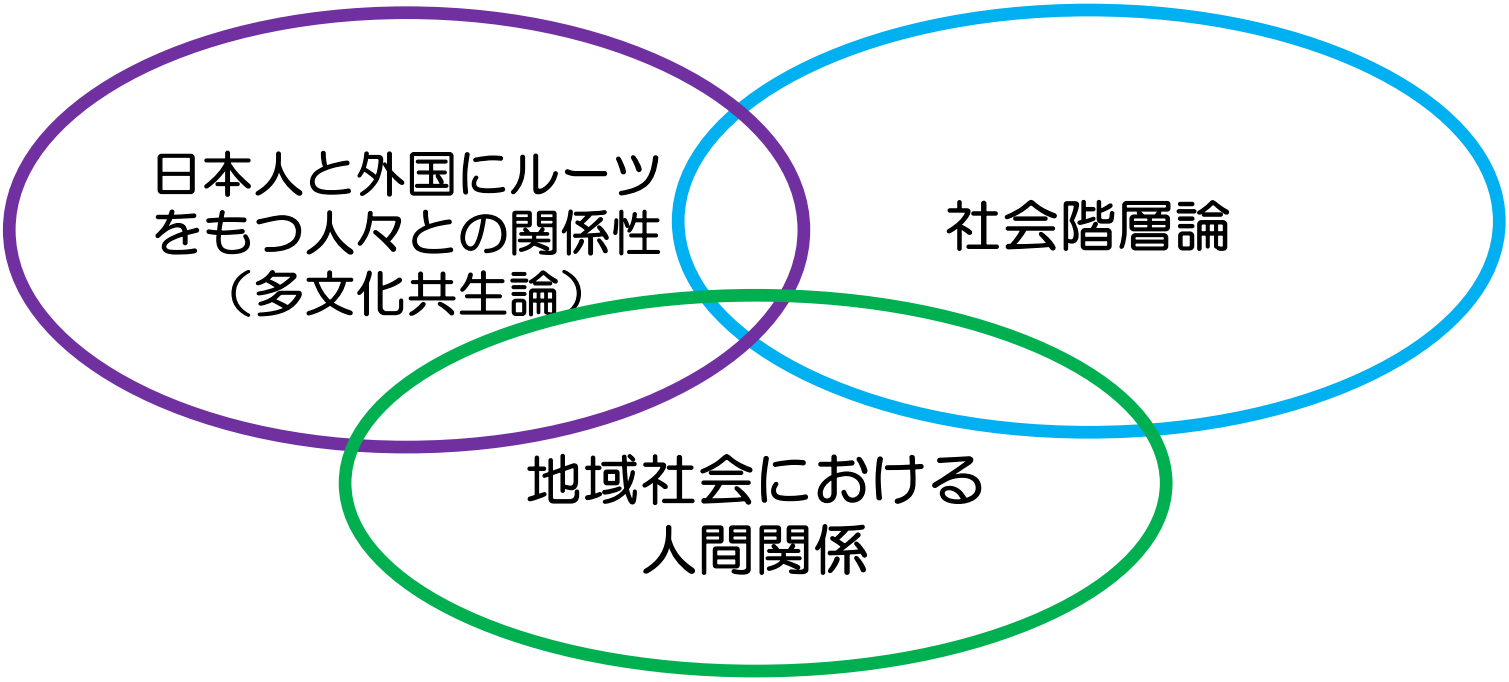
大槻茂実 研究室（社会学）

ohtsuki@tmu.ac.jp



個別に扱われることが多い各領域を、図のように社会学の切り口から統合的に研究しています。

方法論としては、量的アプローチと質的アプローチのいずれも含む社会調査を実践しています。特に双方のアプローチを併用した混合研究法（Mixed Methods）を積極的に採用しています。最近は質的比較分析（Qualitative Comparative Analysis）にはまっております。質の高い社会調査にもとづいた知見から自治体への適切な政策提言を目指しています。

直近では、国勢調査のオーダーメイド集計データ（つまり、2次データ）を使用した移民の階層的地位の分析、階層構造の国際比較、組織社会学を視座としたSocial Qualityに関心をもって研究をしています。

Keywords Sociology, Social Integration, Social Stratification, Social Quality, Social Research, Mixed Methods, International Comparison

現在、M1の学生（1名）が所属しています。

指導方針

研究テーマは基本的には自由ですが、以下の点にはこだわります。

① 社会学（すなわち人間関係の多様性から社会構造を明らかにする学問）をベースとした問題関心であること。
② 実証研究であること。量的アプローチ、質的アプローチは問いません。

研究室の基本的なルール

① 都市政策科学域の特徴である学際的な学びを実践すること。具体的には他の教員が提供する専門科目を積極的に履修し、自分の研究に結びつけること。
② 研究内容の積極的なアウトプットを行うこと。特に授業以外にも研究会という形で研究の進捗状況を報告していただきます。

2023年度について

2023年度は在外研究となります。

最近の代表的な研究

大槻茂実, 2022, 「社会階層と移民-国勢調査データによる探索的検討」, 林拓也ほか編『格差と分断-排除の諸相を読む』, pp.59-76.

大槻茂実, 2021, 「不公平感の効果-格差是正意識に着目して」, 渡邊勉ほか編『少子高齢社会の階層構造2-人生中期の階層構造』, pp.201-214.

Ohtsuki, Shigemi. 2018. Determinants of Open Attitudes towards Foreign Nationals in Japan. *Societies Without Borders* 12 (2), 1-31.

大槻茂実, 2018,「「再生された」伝統的集団による地域の再編-地域祭りへの参加に注目して」「地域資源としての大学」石田光規編『郊外社会の分断と再編-つくられたまち・多摩ニュータウンのその後』.

⇨その他の業績についてはResearch Mapなどでご確認ください。